

<p>学習の友</p>	<p>学習会 にゅーす</p>	<p>静岡県労働者学習 協会静岡支部発行 2022年7月13日 No.118</p>
-------------	---------------------	---



核兵器の存在は人類生存のリスク

核戦争の危機が繰返される—「非核の世界」実現を

今月は、特集記事の「現代の戦争と核兵器」(安齋育郎立命館大名誉教授)を読合せました。筆者はウクライナ戦争で「プーチン大統領が『核兵器による威嚇』の問題に触れたとき、1962年のキューバ危機を思い起こし」と云い、当時の危機的状況を説明しています。そして、核兵器と通常兵器との違い、「原爆」と「水爆」との違い、中性子爆弾についての考え方などについて、明らかにしています。そして現代の戦争で核兵器が使用された場合の惨禍は、広島・長崎とは桁違いの核地獄となると指摘します。また、「核兵器を隠すため、いろいろな手の込んだ方法が考えられている」とも云います。「今こうしている日常の中にも核兵器システムが存在していること自体が、人類にとってのリスクである」とし、「『非核の世界』を追い求めなければならない」と訴えます。

討論では次のような発言がありました。○キューバ危機の際、嘉手納基地に「核巡航ミサイルを発射せよ」と命令があった。その1基はソ連、3基が「別の国」中国だった。核ミサイルを中国に向けて発射する直前だったということだ。○全部がソ連に行くのなら分かるが、違うので問い合わせしたら誤報だったということだ。○「核抑止力論」は、理性がある前提でなりたっていると思うが、独裁者的な人の考えは逆に向かう。○トランプの末期、中国との核戦争を本気で考えており、軍の中では「命令があっても受けけない」との共有がされていたとのことだ。「核兵器の即時廃棄」の思いが共有された討論でした。

次回学習会は次のとおりです。8月号を持って

お気軽にご参加ください。

日時 8月12日(金) 18:30~

場所 国労小会議室



(注)第二金曜日に変更となりました。